

盗難防止とマフィアの存在

モスクワ・シェレメチェヴォ国際空港の話だが、荷物のチェックインから到着空港の受け取りまでの間に、預けたトランクの中身が抜き取られる被害件数が、近年幾何級数的に増えてきた。荷物を預けてから航空機内に積み込むまでの僅かな隙に、巧みに抜き取る神業的な犯行に、航空当局、航空会社側も振り回され、内部関係者の関与が囁かれながらも一向に解決策が見出せないでいた。これでは旅行者は安心してトランクを預けることが出来ない。あまりにも膨大な被害発生と被害者からの苦情にしぶれを切らした当局は、内部調査や、犯人探しよりは、国辱的ではあるが、手っ取り早く効率的な対抗手段に打って出た。何と恥も外聞もなく、世界へ向けてモスクワ空港の治安の悪さを逆宣伝して、防止対策のための業者を空港ロビー内に開業させたのである。手馴れた業者は、旅客から預った荷物をあつという間に丈夫な透明ガムテープでぐるぐる巻きにする。これでは、瞬時にトランクから中味を抜き取るのはまず不可能だ。最近では、この効果的な防止対策が功を奏して、ほとんどの旅客がこのシステムの世話になるようになった。

当面荷物の盗難数も激減し、まずまずの成果に当局も胸をなでおろしていることだろう。だが、利用者の費用負担による荒療治は利用者サイドとしては何か釈然としない。犯人一味が捕らえられ、事件が解決したわけではなく、旅客には費用がかさみ業者だけが潤っているのである。因みに今年3月私は、盗難防止費用としてトランク1個当たり、物価の安いロシアで60ルーブル（約240円）も支払った。社会主義国家ソヴィエト連邦が崩壊して、最近ではロシア国内にもマフィアの存在がクローズアップされているが、これらの業者にもマフィアの影がちらついているとは、ロシア観光業界のもっぱらの噂である。

（近藤）